仙台南部流域治水出張所だより

あぶたんつうしん

255 Go!

令和7年5月29日発行

発　行：国土交通省 東北地方整備局 仙台河川国道事務所 仙台南部流域治水出張所
〒989-2441 岩沼市館下1丁目2番9号　☎0223-22-2801 FAX:0223-22-2802

おおくま花畑のクリムゾンクローバー

（2025年5月7日撮影）

５月初旬、阿武隈川右岸のJR常磐線阿武隈川橋梁付近にある「おおくま花畑」で、クリムゾンクローバーの花が見頃を迎えました。

2.5ヘクタールの畑におよそ400万本のクリムゾンクローバーを植えたのは、亘理町の逢隈地区まちづくり協議会。「水辺から地域を元気に」をテーマとして、東日本大震災による津波被災地の水辺の様々な活動を支援する「水辺・絆プロジェクト２０２５」の支援事業に引き続き認定されています。

クリムゾンクローバーは、南ヨーロッパ原産のマメ科の植物。
真っ赤な花がイチゴの形に似ていることから「ストロベリーキャンドル」「ストロベリートーチ」（松明）とも呼ばれています。

特産品がいちごの亘理町にピッタリの花だっちゃ♪

訪れた方の声です
「テレビのニュースを見て初めて来ました。青い空と鉄道橋、真っ赤な花畑、緑のラインの電車。色彩だけじゃなく、川面からの爽やかな風と草のざわめき、小鳥の鳴き声、電車の走行音。すべてが一体となる素晴らしさに感動しました」





花言葉
「幸福を呼ぶ」

植えた方にも訪れた方にも幸運が訪れるといいっちゃね

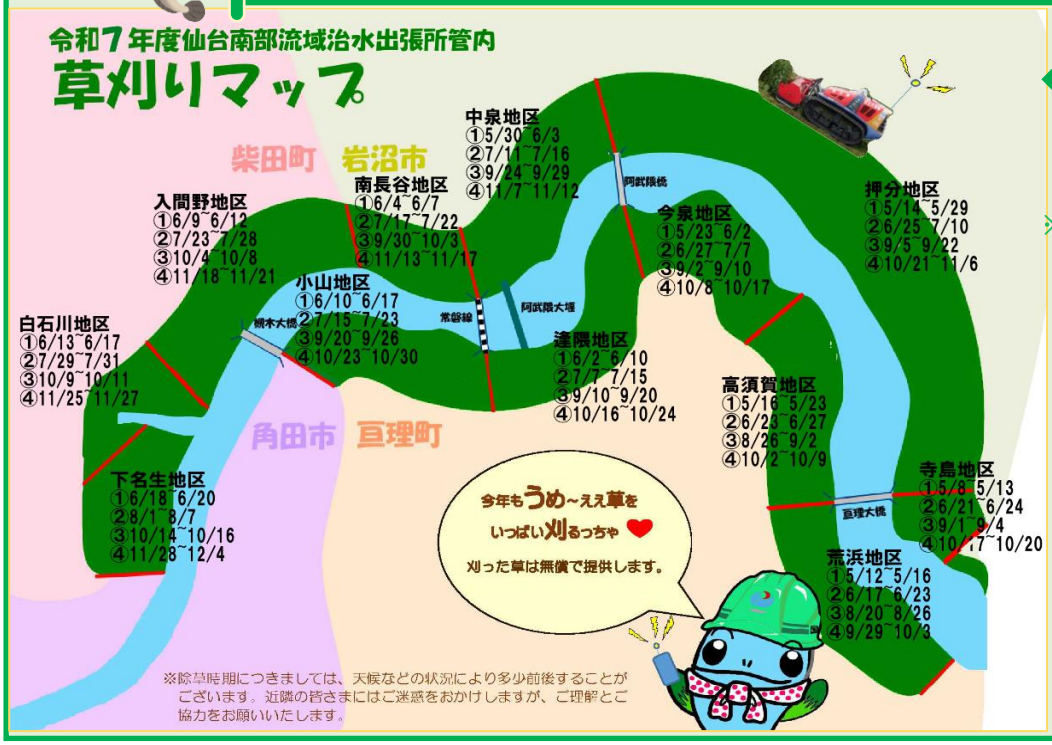
緑肥効果があり地力回復の助けとなるクリムゾンクローバー。鑑賞を終えた後は畑にすき込み、6月に種蒔き予定のひまわりが育つ肥料になるそうです。



8月のおおくま花畑

令和7年度草刈りマップと工程表ができました

令和7年度仙台南部流域治水出張所管内
草刈りマップ



※除草時期につきましては、天候などの状況により多少前後することがございます。近隣の皆さまにはご迷惑をおかけしますが、ご理解とご協力をお願いいたします。

令和7年度草刈りマップとスケジュールが完成しました。
詳しくは左のマップをクリック♪

※刈草無償提供につきましては詳細が決まり次第、ホームページでご案内します。
こちら→

お知らせ

令和7年度の
伐採木無償提供はありません。

来年度以降の実施についてはホームページでお知らせします

ご期待いただいた方、ごめんなさい

出水期に備える

出水期（しゅっすいき）とは
河川の水位が高くなりやすく、氾濫が発生しやすい時期のこと。
阿武隈川の出水期は6／1～10／31です。

梅雨や台風による集中豪雨で河川の水が増水し河川の氾濫が発生する可能性が高くなる出水期に備え、仙台南部流域治水出張所では様々な巡視と災害対応の演習を行っています。その一部を紹介！

河川の氾濫を防ぐための備え

災害に繋がらないように
いざという時に命を守れるように
備えているっちゃ★



異常ナシ！

樋門･樋管合同点検（5/15）

樋門･樋管とは、川の水位が普段より高くなった時に、川から住宅地側への逆流を防ぐための施設です。
点検では、実際に樋門･樋管のゲートを動かして、確実に止水できるか？不具合はないか？を「水門等水位観測員」さんと一緒に調べました。
大雨の時ゲートを操作する「水門等水位観測員」さんは、地元の方から選ばれ委嘱されています。



異常ナシ！

船上巡視（5/16）

ボートを使って、徒歩での堤防点検で確認できない護岸の巡視を行いました。
土砂堆積、河岸浸食などがないか確認しました。







ボートの運用訓練もかねているっちゃ

異常ナシ！

堤防モニタリング（4/15･18･22･25）

阿武隈川下流30.4kmの堤防を登ったり降りたりしながら歩いて点検しました。
堤防にひび割れやひずみがある箇所に変化がないか過去のデータと照会したり、土手の部分にモグラ穴がないかなどを細かく調べました。



堤防のひび割れが長く･深くなっていないか計測して確認、→早急な修繕の必要性を判断。



氾濫後の早期復旧のための備え

洪水対応演習（5/14）

河川氾濫時の被害情報の把握や関係機関との調整等の対応手順･連絡体制を再確認しました。



↑被害状況･指示･対応を時系列に沿って書き出し、情報を一元化します。



基本の対応を実際に訓練でやってみることで、災害時にも落ち着いて行動できます。

堤防で見かけるこれは何？



災害対策備蓄資材



応急復旧用盛土

堤防が決壊してしまった時は、いかに**迅速に復旧**させるかがポイントになってきます。河川氾濫は、橋が流されたり普段使っている道が通れなくなるなど大きな交通障害をもたらしますが、堤防の応急復旧に必要な資材をあらかじめ川近くに設置することで、より迅速な復旧作業につなげます。
また、災害対策備蓄資材が置かれている堤防外側の盛土は、通常は資材置場となると同時に堤防を外側から補強する役割を果たしています。応急復旧作業では、この土も資材として利用されます。

河川でのこういった早期復旧の備えは、東日本大震災の起こるずっと前から取り組まれていたっちゃ

阿武隈川の堤防道路が立派なのも迅速な復旧の備えです。
復旧作業時にダンプトラックがすれ違って通行できる幅にしています。
土地の形状上道幅が細くなる箇所は、トラック1台分の幅をキープし、付近に車の待避所を設け、工事が遅れないように考えられています。



過去の災害を検証し、伝え、これからの災害に備える…

防災=伝承+想像力